

貨物駅構内の物流拠点発で12ftコンテナを活用

大阪府堺市で創業した㈱サカイ引越センターは、2025年11月に創業55年目を迎えた。一般顧客を対象とした引っ越し業を主とし、年間取扱件数は約82万件、売上高は全国一位である。単身・家族、近距離・遠距離の他、荷造りを自分でするか任せかなどさまざまなプランが用意されている。現在、全ての都道府県に218支社を置いて国内を網羅する他、海外への引っ越しにも対応している。

2024年、サカイ引越センターは東京(タ)構内の東京レールゲートWESTとIPC隅田川(JR貨物ロジ・ソリューションズ㈱隅田川支店第2営業所)に従業員常駐の事務所を開設した。近年、鉄道コンテナの利用を増やしている東日本本部の佐藤浩太郎課長代理に聞いた。

従来、貨物鉄道をご利用です

鉄道コンテナは15年ほど前から遠方への引っ越しに利用していますが、リードタイムが合うお客さまに限定されますので、利用実績を伸ばすのが難しい状況でした。利用が本格化したのは2年前です。CO₂排出量を減らすことが輸送事業者としての社会的責任であるとして、積極的に



佐藤課長代理

モーダルシフトに取り組んだことが理由の一つです。

もう一つは物流の「2024年問題」対策です。改正物流効率化法により、荷主に「待ち時間の短縮」と「積載率の向上」が努力義務化されたことも大きな要因です。「2024年問題」の背景にはさまざまな課題がありますが、当社では、ドライバー不足の解消と待ち時間の短縮を主たる課題と捉え、



サカイ引越センターのトラック



12ftコンテナに積載、東京レールゲートWESTで

その解決策の一つとして鉄道コンテナの本格的な運用を開始しました。

待ち発生時のタイミングは?

ご家庭へご家財を取りに伺うのは2,750台ある自社トラックで、物量や周辺の道路状況により、さまざまな車両を用意しています。一方、幹線輸送は協力会社へ委託し、大型トラックで行うことも少なくありません。そのため当社の最寄りの支社にていったん集積し、協力会社へご家財を積み替えるタイミングで待機が発生しやすいのです。

例えば朝、ターミナル倉庫に到着した協力会社の大型トラックは、ご家財を卸した後、次の集荷へ向かうのですが、最寄りの支社も人手不足ですから、トラックが続いて到着すると積み卸しのタイミングがずれてしまう。繁忙期には多くのトラックが集中し、待ち時間も長くなる傾向があります。

東京レールゲートWESTに物流拠点を配置しました

JR貨物ロジ・ソリューションズが利用運送事業者として輸送枠などを手配し、日本フレートライナー(㈱および㈱ジェイアール貨物・南関東ロジスティクス)が集荷します。東京(タ)構内という立地もあり、貨物列車へのアクセスがとても良いのがメリット。北海道向けなどは隅田川駅も利用し、柔軟な輸送力を発揮します。

自社トラックから卸したご家財を次々と12ftコンテナに積み出すことができるため、輸送の流れも円滑になりました。ひいては大型トラックの手配を減らすことにもなるため、ドライバー不足解消の一助にもなっています。

大型トラックには、4人家族のご家財なら2〜3軒分を積み合わせる傾向にあります。首都圏の貨物を東京レールゲート



集荷に来た日本フレートライナーのトラックヘッド



シャシーとつなぐ

WESTに集約することで、トラックは複数の支社を経由することなく、ここ1カ所ですべて完了することができます。

春や決算期、人事異動の時期などが引っ越しの繁忙期。特に3月20日から4月5日は配送が過密状態となります。今春、2024年5月に東日本本部のターミナル倉庫を開設して以来、初めてのその繁忙期を乗り越えましたが、待ち時間はかなり短縮されたと感じています。

鉄道はどのように利用されるのでしょうか

首都圏のターミナル倉庫から出発するもののうち、鉄道コンテナの利用は2割程度。引っ越しはスケジュールが決まっている場合が多いので、リードタイムに余裕があるお客さまが対象です。また、鉄道コンテナ利用のプランは、そうでないプランと比べて多少低額でご提示しています。また、モーダルシフトという観点で、環境保護を重視するお客さまにも選択されています。

訪問見積の際にお客さまへお配りする「キッチンサカイの大百貨」では、引っ越し準備やプランの選定に役立つ情報、家電・家具の販売、エアコンなどの電気工事、不要品買い取り、ハウスクリーニングなど、“あとと便利”で“お困りごとを解決する”豊富なサービスをご案内しています。環境に配慮したい方や日程に

ゆとりのある方へのご案内として、コンテナ輸送についても紹介しています。

12ftコンテナで全国へ

12ftコンテナは1家族分のご家財で満載となる場合が多いです。積み合わせる場合も、ターミナル倉庫ではプラスチックフェンスでレーンを仕切り、パレットごとにストレッチフィルムを巻き、識別シールを貼付した上でシステム管理をしています。高精細な監視カメラも導入し、貨物の流れを厳密に管理していますので、誤配・混在はありません。

日本全国へ12ftコンテナを活用した片道の配達が可能で、鹿児島への離島向けなど、その配達可能範囲の広さを実感しています。鹿児島(タ)まで鉄道で輸送して、鹿児島通運(株)が鉄道コンテナのまま離島まで届けることができます。離島向けの海上コンテナに積み替えることがないので、リードタイムはトラックと遜色ありません。積み替え回数が減れば待ち時間も減ります。また、特に長距離輸送ではCO₂排出量削減とドライバー不足解消の効果が高い特長もあり、輸送方法としての利便性とモーダルシフトとしての効果のいずれも持ち合わせていると感じています。

今後について

東京レールゲートWESTとIPC隅田川にターミナル倉庫を設け、フォークリフトやハンドリフト、パレットなどの設備や資材を整えたことで、積み替える作業員の身体的負担も少なくなりました。

私が所属する東日本エリア管内では、リユース品や留め置きのご家財も扱っています。貨物鉄道を含めた輸送手段を選択できることは、環境負荷低減だけではなく、経費節減の面からもメリットがあり、引っ越し事業者として一歩前進したように思います。JR貨物ロジ・ソリューションズの皆さんの強力なサポートをいただき、今日まで来られました。今後も鉄道利用の実績を増やしていくことを、当社の重要なミッションとして取り組んでまいります。



3個積みでコンテナホームへ向かう